九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

テキスト・データ・ベース(SIGMA) : ファイルの取り扱いについて

樋口, 忠治
九州大学教養部

https://doi.org/10.15017/6796291

出版情報：言語科学. 19, pp.37-45, 1984-03-31. 九州大学教養部言語研究会
バージョン：
権利関係：

テキスト・データ・ベース（SIGMA）
―ファイルの取り扱いについて―

樋　口　忠　治

1　ファイル格納の領域および区域とファイル名
　1．　シグマ領域
　2．　メモ領域
　　1）メモ区域
　　2）作業区域
　　3）ログ区域
　　4）コード区域
　　5）バックアップ区域

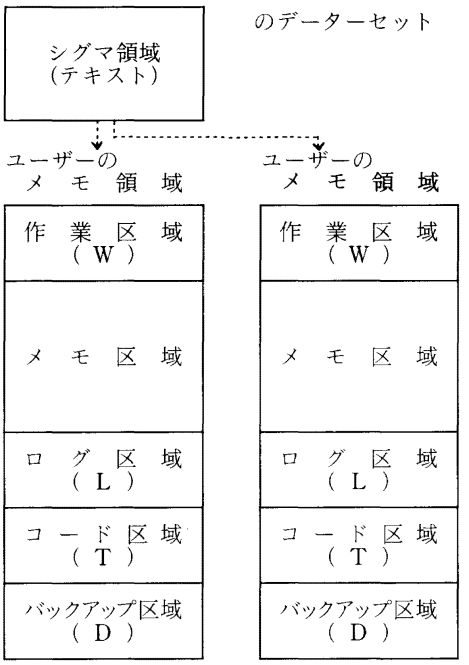
2　ファイルの参照
　1．　シグマ領域のファイル
　2．　メモ領域のファイル
　　1）作業区域のファイル
　　2）ログ区域のファイル
　　3）コード区域のファイル
　　4）メモ区域のファイル
　　5）バックアップ区域のファイル

3　ファイルの移動
　1．　外部データセット
　2．　メモ領域のファイル

4　作品単位の検索

5　ファイル名と作品の対照一覧

F 1683（トーマス・マン・ファイル管理用課題番号）



1　ファイル格納の領域および区域とファイル名

1．シグマ領域

検索の対象となるテキストはシグマ領域に格納されている。この領域のファイルはすべて先頭にS.をもつファイル名になっている。この領域のファイル名一覧は次の方法による。

DO:DIR S　　または

DO:DDIR S

2．メモ領域

メモ領域はその内部がさらに次の5種類の区域に分かれる。

1）メモ区域

検索の結果など，ここにファイル名をつけて保存しておく。ファイル名は任意である。この区域のファイル名一覧は次の方法による。

DO:DIR or DDIR

FILE:=↙

PASSNUMBER:=↙

2）作業区域(W)

外部データセットをシステムにとり入れた場合，あるいはリファイルによってファイルを作成した場合などには，この区域のトップ（W. 1）にそのファイルがつくられる。W. 1は単にWだけで扱かうこともできる。ファイルには新しいものから順に W. 1，W.

2，W. 3,…のようなファイル名がついている。

PUT ABC は W.1 をメモ区域に移して，これにABCというファイル名をつけることを意味する。

例

外部データセットをWにとり入れる（ABC.DATA）

DO:LOAD X. ABC. DATA

例

作業区域のW. 1をメモ区域に移し，これにXYZというファイル名をつける。

DO:PUT XYZ

3）ログ区域(L)

使用したコマンド類はそのままログファイルとして，この区域に自動的に保存される。ファイル名は新しいものから順にL. 1，L. 2，L. 3，…である。

4）コード区域(T)

リファイルは，SEARCHの結果がコード化されたファイルに基づいて，シグマ領域のテキストから必要なデータをとり出してファイルを作成するもので，こうして作られたファイルはW区域のトップにW. 1というファイル名で存在する。リファイルのための一連のコードはひとつのファイルとしてこの区域に保存される。ファイル名は新しい順にT. 1，T. 2，T. 3，…となる。

5）バックアップ区域(D)

他の区域のファイルが消去（DELETE）されると，いったんこの区域に格納され，こうしたファイルが一定数に達すると古いものから順に完全に消される。他の区域内のファイルも，その数が一定数に達すると，最も古いファイルはこの区域のトップに移される。

2　ファイルの参照

1．シグマ領域のファイル

シグマ領域のファイルはLISTコマンドによって見ることができる。

例

DO:LIST S."F1683.MANN. ERZ. STUNDE"

この領域のすべてのファイル名をリストアップするには次の方法がある。(プレフィックスはF1683にしておくものとする。)

DO:DIR S　　（ファイル名のみ）

DO:DDIR S　　（ファイルの大きさなど）

2．メモ領域のファイル

1）作業区域(W)のファイル

この区域のトップファイルを見るコマンドとしてLOOKがある。これはLIST W.1に等しい。ファイル名は新しいものから順にW.1, W.2, W.3, …となっている。ただし，W. 1に限ってはWだけで指定できる。

2）ログ区域(L)のファイル

投入したコマンド類はすべて記録され，この区域にログファイルとして保存される。新しいものから順にL.1，L.2，L.3…というファイル名がついている。

例

DO:LIST L.3

3）コード区域(T)のファイル

検索用コマンドSEARCHの使用によって，シグマ領域の指定されたファイルのどこに求められているデータがあるのかをコード化して記録する。このコードを基にしてリファイルが行なわれる。ファイル名はT.1，T.2，T.3，…である。

4）メモ区域のファイル

区域W，L，Tのファイルはファイル数がふえると，それに従ってもとのファイルは古くなり，ファイル番号は大きくなる。ファイル数が一定数に達すると最も古いファイルはD区域へ自動的に移される。メモ区域のファイル名は番号式ではない。命名は自由である。

5）バックアップ区域(D)のファイル

他の区域から意図的あるいは自動的に消去されたファイルはいったんはこの区域のトップに移される。それらが一定数に達すると，やはり最も古いファイルは完全に消去される。ファイル名は番号式であるが，元のファイル名でも指定できる。

DO:LIST D.2

DO:DIR D

バックアップ領域にあるファイルを復元するためには，GETまたはMOVEコマンドを用いる。

DO:GET D.2

DO:MOVE D.2 ABC

3 ファイルの移動

1．外部データセット

シグマシステム外のデータセットをシステムの中にとり入れるためには次の方法がある。

a) DO:LOAD X.ABC.DATA

これはABC.DATAというデータセットをシグマシステムのメモ領域の作業区域(W)にコピーする事を意味する。

b) DO:COPY X.ABC.DATA W

これもa）と同じ働らきをする。

逆に，W区域のトップファイルを外部データセットに取り出す（コピーする）には次の方法がある。

c) DO:COPY W X.ABCD.DATA

このようにして作られた外部データセットはデータ・タイプが可変型(V)であり，TSSコ

マンドのEDITを用いて編集することができる。

2．メモ領域のファイル

W，L，T，Dおよびメモの各区域相互間でファイルの複製を作るためにはCOPYコマンドを用い，他の区域へ移すだけならMOVEコマンドを用いる。

LOADおよびSAVEはCOPYの特定の場合に等しい機能をもつ。

PUT，GET，DELETEはそれぞれMOVEの特定の場合に等しい。

例

1）DO:MOVE W XYZ

W区域のトップファイルをメモ区域に移してファイル名をXYZとする。

2）DO:PUT XYZ

1）と全く同じ。

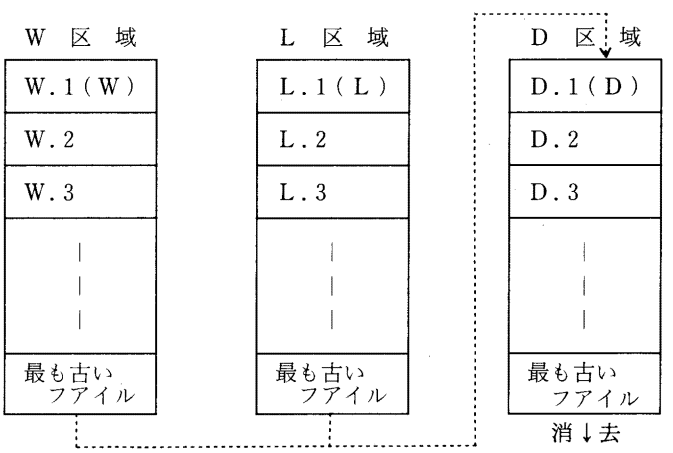
3）DO:GET ABC　　(=MOVE ABC W)

メモ区域のABCをW区域のトップに移す。

4）DELETE ABC　　(=MOVE ABC D)

メモ区域のABCをD区域のトップに移す。

メモ領域内のメモ区域を除く各区域では，トップファイルのファイル名を単にW，L，T，Dだけで表わすことができる。



4　作品単位の検索

任意の語や句を含む文を検索するにあたっては，個々のファイル毎に行なうよりも，作品を単位として行なうほうが目的に適なっている。ファイルは物理的な制約によったものである。そこで，次の方法によって間接的に作品を単位として検索が行なえるようにした。但し全集第8巻は全体をまとめて検索するものとする。メモ区域に下記のファイルを用意しておけば，ファイル名を要求してきた時に次の形式で入力すると，指定した作品に属するファイル名が

自動的に読み込まれることになる。

例

FILE:=.ZB　　(ピリオドが重要)

これによってDer Zauberbergに属する11のファイルすべてについて検索が行なわれる。

入力形式	作品名
.BB	Buddendrooks
.DF	Doktor Faustus
.ERZ	Die Erzählungen
.EW	Der Erwählte
.FK	Felix Krull
.KH	Königliche Hoheit
.LT	Lotte in Weimar
.ZB	Der Zauberberg
.ALL	(以上のすべてをまとめたもの)

注意　出力量が大きいことを考慮しておく必要がある。

ファイル名入力用ファイルの作成

いくつかのファイルをまとめて，連続的にファイル名を投入するには，それらのファイル名からなるファイルを作り，これをメモ区域に納めておく必要がある。その作り方は次の通りである(△印はブランクを表わす)。

```
1) △△
2) △FILE : =S. "F1683・MANN・JS・NO1"
3) △△
4) △FILE : =S. "F1683・MANN・JS・NO2"
5) △△
6) △FILE : =S. "F1683・MANN・JS・NO3"
7) △△
8) △FILE : =.E
```

このファイルにJSというファイル名をつけてメモ区域に保存しておく。検索に際して，FILE:=の要求があった時点で.JSを投入すると，以後このファイルから次々にファイル名が投入され，最後に.E，によってファイルJSからの読み込みが終る。1行目の空行には特に注意。各ユーザーは任意のファイルをまとめて上記の例にならってメモ区域にファイルをつくっておくとよい。

具体的な作成例

READY

```
E JS NEW D LR(80) NON
E
(ブランク行)
FILE:='……'
(ブランク行)
FILE:='……'
(ブランク行)
FILE:=.E
E
END S
SAVED DATA SET 'UID'.JS.DATA'
READY
SIGMA
SIGMA> TERM B N
TERM:↙
DO:LOAD X.JS. DATA
DO:PUT JS φ    (SAVE JS φでもよい)
DO:SEARCH
VERSION (D/E)? D
  ⋮
FILE:=.JS
  ⋮
```

必要なファイルをこの形式で入れておく。

PUTは区域間で移動させるのみであるが，SAVEはW区域のトップファイルのコピーを指定区域に別に作る。従って，SAVE JSはW.1のファイルのコピーをメモ区域につくってJSというファイル名を与えることになる。PUT JSはW.1をメモ区域に移すことを意味するから，以後W区域にはこのファイルは存在しなくなる。

注意

1）論理サイズLR(80)に作ること。指定しないと空白行があるようでも，実は改行になっていないことになる。

2）第1行は少なくとも1以上ブランクを入れてC/Rとすること。奇数行はみな同じようにすること。

3）最終行の'.E'を忘れないこと。

4）他のユーザーからLOADすることもできる。

この場合は

LŌAD X.'UID・ファイル名・データタイプ'となる。

例　X. 'F1683. JS・DATA'

5）LOADによってファイルJSが作業区域のトップ(W.1)に取り込まれたら，次にメモ区域にコピーをつくる。

SAVE JS ϕ C/R

6）パスナンバーは問い合わせに対して入力するか，上例のように同時に行なうかの何れでも可。ϕはパスナンバーをつけないことを意味する。

7）すべて第1カラムは空白とすること。

パスナンバーの設定

メモ区域のファイルをつくる場合にはパスナンバーの設定をするか否かを必らず問い合わせてくる。設定をする場合には4ケタ以内の数字で指定する。設定はファイル名と同時に指定する方法と，問い合わせに対して指定する方法とがある。

(1)

DO: PUT ABC ϕ
DO:

(2)

DO: PUT ABC
PASSNUMBER:=ϕ
DO:

ϕ（ゼロ）はパスナンバーの設定をしないことを意味し，また復改のみによってもϕの指定をしたのと同じことになる。ϕ以外の指定をすれば，以後そのファイルにアクセスするためには必らずその番号を添えなければならなくなる。特に秘密性を保持する必要がある場合を除いては，パスナンバーの指定はϕにしておいたほうがよい。

5　トーマス・マン・ファイルのファイル名と作品の関係一覧（第Ⅷ巻）

ERZ.LEID	Gefällen, Der kleine Herr Friedemann, Unordnung und frühes Leid
ERZ.BAJAZZO	Vision, Der Wille zum Glück, Enttäuschung, Der Tod, Der Bajazzo, Tobias Mindernickel, Der Kleiderschrank, Gerächt
ERZ.GLADIUS	Luischen, Der Weg zum Friedhof, Gladius Dei, Die Hungernden, Das Wunderkind, Ein Glück, Beim Propheten
ERZ.STUNDE	Schwere Stunde, Wälsungenblut, Anekdote, Das Eisenbahnunglück, Wie Jappe und Do Escobar sich prügelten, Der Knabe Henoch
ERZ.BETRO	Die Betrogene
ERZ.GESETZ	Das Gesetz
ERZ.HUND	Herr und Hund
ERZ.KOEPFE	Die vertauschten Köpfe
ERZ.MARIO	Mario und der Zauberer

ERZ.TONIO	Tonio Kröger
ERZ.TRISTAN	Tristan
ERZ.VENEDIG	Der Tod in Venedig